

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
生徒指導	基本的生活習慣の確立	・挨拶の徹底や遅刻の防止に努め、正しい言葉遣いの指導にも積極的に取り組む。特別な事情のない限り、全生徒が8:30には昇降口を通過できることを目標とする。同時にカッターシャツ、ブラウスの第一ボタンを締めさせる。	B	B	・挨拶は概ねできている。遅刻は減少傾向にあったが、目標にしていた8:30に全生徒が昇降口を通過させることはできなかった。 ・第一ボタンを締めさせる指導より、スカート丈(長短)の指導に時間を取られた。スカートの指導は一定の成果があったと考える。	・来年も引き続き目標にする。 ・一斉登校指導を実施する。	生徒が挨拶の励行に努め、バス内でのマナーも向上しているなど一定の評価をいただいた。特に自転車の事故防止について今後も指導を願う声が出され、事故防止に向けた啓発活動を続けていく。今後も毎朝の挨拶指導、服装点検を続けて欲しいとの意見もいただいた。
	日常生活におけるのマナー・モラルの周知徹底	・登下校時における、公共交通機関でのマナー、モラルの周知徹底を図り、外部からの苦情等を少なくする。(昨年度の3割減を目標とする)	B	B	・年度当初より公共交通機関や自転車でのマナー・モラルの悪さで苦情をいただいた。また、自転車事故が多く発生した。生徒たちにマナー・モラルについて更なる周知徹底が必要である。	・全校集会等を実施し改善を目指したい。	
環境・安全	校内美化の徹底と安全面の強化	・校内および校外美化活動を学期に1回実施する。 ・避難訓練を通じ安全面の意識の向上を図る。 ・美化委員会を学期に1回以上実施し、校内美化に努める。	B	B	校内・校外美化活動を通して環境、美化への関心を高めることができた。 避難・消火訓練を通じて防火、防災への啓発に努めた。 冬場のカップ麺の残飯の処理について一考を要する。	継続して防災、防火に対する訓練を行い校内外の美化意識向上に努める。	生徒の奉仕的活動に評価の意見をいただき、今後も続けていきたい。
文化体育	生徒の自主的・自発的な活動の推進	・昨年に引き続き、文化祭等の学校行事への関わり、校内美化、校外美化等への積極的な参加を奨励、推進する。(部活動を中心に活動計画・活動報告を生徒に考えさせ、実行するよう働きかける)	B	B	・一部クラブによる活動の定着が見られるものの、広がりという面では進んでいるとは言い難い。部員数や活動内容等個々のクラブが持つ現状や特性もある。また、強制ではなく自主性を重んじるという趣旨もある。難しい面もあるが、当初の方向性を重んじつつ、取り組み方を熟慮しながら継続的に取り組む。	・特に方法の改善を要しないと考える。生徒の自主性を重んじた指導を継続的にし、それぞれのクラブの伝統となるよう生徒の意識を醸成する。	本年度1年生全員が部活動に所属し活動する取組について「言葉遣い、人間関係の構築」などいろいろな事を学ぶことができ良いことであるとの意見をいただいた。
	部活動の活性化	・部活対抗フットサル大会を生徒会・体育振興G共催で行い、各部の交流・部員の意欲の高揚を図る。学期に1回開催し、文化系クラブにも参加を呼びかける。 ・新聞部による各部の活動の様子の取材・広報を積極的にを行う(平均月1部制作を目指す。)	B	B	本年度はクラブ員の人数を増やすことでも活動の活性をはかろうと、新入生全員にいずれかのクラブに仮登録をさせた。一部文化系クラブへの集中等混乱が見られた。 ・部活動対抗フットサル大会については、生徒会本部役員が主体的に企画・調整を行い体育科の協力を得て実施した。本部役員生徒が主体的に活動したことは評価できるが、体育館使用時のマナーへの配慮を怠った。今後、施設利用に限らず、マナーにも配慮するよう指導したい。 生徒会本部役員生徒は、球技大会の実施に向けて活動を行っている。関連分掌・教科との連携を深め、実施の可能性を具体的に模索していきたいと考える。	・新たにミニゴールも購入したので、来年度は運動場で実施する。3学期末は気温、体長への影響も懸念されるので、実施は1・2学期の2回とする。 ・広報活動については、Webページを活用して、各クラブが自主的に広報活動を行うよう呼びかけていきたい。	部活動数、部員数の偏りなど課題はあるが、今後も継続して行っていきたい。 若者の文字離れ、読書離れが言われて久しいが、読書指導についても今後継続して書物に親しむ態度の育成、読書力の向上につなげていきたい。
	図書館運営の活性化	・クラス文庫用の図書を充実するとともに、クラスへの利用を積極的に働きかける。 ・課題研究や資料学習等教科での利用を一層活発化するために、各教科との連携を模索し関連図書の充実にも努める。 ・教職員の利用拡大を視野に入れ、奈良県立図書館クイックサービスの利用を積極的にPRする。	A	A	・クラス文庫については、生徒の活用度をフィードバックすることはしていないが、恒常的に学級に図書を配置し、学期ごとの入れ替えも図書委員を通じて行っている。成果が直接的に見える性質のものではないが、今後も地道に取り組んでいく。 ・教科の学習指導で図書館を利用させていただく機会が増えている。 ・県立図書館クイックサービスの利用については、進路指導関連での利用が多かった。今後もPRをすすめ、より多くの教職員が活用できるようにしたい。	・課題研究や資料学習等の活用に関して、教科から早い時期に計画を示してもらえば関連資料の準備等を充実し、より優れた環境の提供が可能となる。	

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
学習進路・ キャリア教育	生徒の自発的な学習の啓発と 主体的な進路実現の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・学習合宿などさまざまな機会を通して生徒の持続した学習習慣の定着を図る。 ・進路ガイダンスや大学見学会等の進路関係行事の改善と工夫を進め、効果的な実施をする。 ・進路ガイドブックの充実や進路インフォメーションの発行等による生徒及び保護者への啓発に努める。(学期3回の発行) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学年別に年に2回、学習合宿を実施できた。より生徒の実情に合ったプログラムの工夫を図る。 ・進路行事は生徒のニーズに合うよう工夫した。類型選択時など生徒が進路を考えるタイミングを工夫したり、大学の先生による模擬授業などを取り入れ改善した。 ・進路ガイドブックは合格体験談などの改善と知りたい情報を工夫した。また進路インフォメーションは毎月の発行に努めた。保護者へどのくらい伝わっているのかが不安。 ・家庭での学習が最優先であるが、放課後に自学自習を希望する生徒が定着しつつあるが、場所などのサポートはできないか？ ・保護者の進路についての理解を深める手立てはないか？ ・模擬テストの計画的・効果的な実施計画の見直しが必要か？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬テストの年間計画の見直し(例:スタディサポートを春と夏の休業中の課題とし、休業明けの課題テストとして位置づける) ・保護者への啓発や告知のため、ホームページの活用を推進 ・家庭学習の定着に向けた工夫や放課後や長期休業時の学校での自習環境の整備 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の充実を望む声が多く出された。 また学習習慣の定着のため、学習合宿を行ったことについては評価する意見をいただいた。 また進路情報などが保護者まで届きにくいとの意見が出され、進路講演会、進路説明会などの実施方法など今後検討していきたい。
	本校におけるキャリア教育の構築と推進	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者から生徒へのメッセージ集「キャリアデザインガイドブック」の活用を図る。 ・教員対象のキャリア教育研修会を実施し、理解と啓発に努める。(年1回) ・生徒向けのキャリア教育ホームルームの工夫と改善を行う。 	A		<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアデザインガイドブック」の編集と発行を実施した。予想以上に保護者の協力があつた。より一層の工夫と改善で、効果的な編集を図る。 ・その冊子を使ったHRの展開ができた。振り返り等で生徒の反応や意見を次回に反映させる。 ・夏期休業時の研修を実施。中堂園さんを講師に招き実施した。3年連続の実施である程度先生方の理解も得られたか。次年度からの研修について、内容等も精査する必要があるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリアデザインガイドブック」の改善と工夫。HRでより生徒の実情に合った展開を工夫する。 	
健康教育	自分の健康状態を把握し、自己管理出来る生徒を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会を必要時に開き、委員会活動を通して、保健委員の意識の向上を図る。 ・各種の検診や、保健便りを定期的に発行することで、集団の健康を高めることを目指す。 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会を必要時に開催し、健康診断の手伝いや文化祭における展示発表を行い健康意識の向上に努めた。 ・保健だよりをほぼ月1回発行し、健康情報の発信に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の更なる活性化を図りたい。 ・マンネリ化することなく生徒達に興味を持ってよう内容を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会人でも、年々精神的に不安定な状況を示す人が増えるなか、高校において様々な取組が行われていること、特にピアクラブの活動に評価をいただいた。今後も継続して進めていきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談の定着 ・特別支援教育の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアクラブ委員会を、月1回実施する。 ・ピア・マネージャー会議を、学期に1回以上実施する。 ・「健康・美化」通信を、月1回発行する。 ・支援対応の生徒の保護者と、懇談を行う。(1・2学期) 	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアクラブ委員会を、毎月実施することが出来た。しかし、グループホームへの訪問に関しては、2回計画していたが、1回しか、実施できなかった。また、ピアマネージャー会議は、実施できておらず、再考が必要。 ・支援対応の保護者懇談は、概ね成果をあげることが出来た。 ・スクールカウンセラー等と生徒、保護者、職員等との連携は、概ね良好な状況である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、不十分であったところを再考する。 ・学生カウンセラーや、スクールカウンセラーと生徒の人間関係を深めることを最優先に行う。 	
人権教育	人権に関する知的理解と、人権意識、感覚の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・現地研修及びバルツァゴードル(重症心身障害児施設)での研修を通して、人権問題に対する意識の向上を図る。 ・人権HRの実施、奈良養護学校・バルツァゴードルとの交流を通して、生徒の人権意識の向上をはかる。(年4回の交流会の実施) 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・横井支部での研修、バルツァゴードルでの研修は、共に現地で声を聞き、見、人の思いを再確認し、人権に対する意識は高まった。 ・奈良養護学校へ3回、バルツァゴードルへ2回。交流委員の生徒達は、接し方や感じる心等、貴重な体験をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現地での研修は必要。この意識の高まりを全体に広げる研修会を実施。 ・こちら交流委員だけでなく、他の生徒達にも実感できるHRを展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> 施設への訪問等人権教育に関する取組の継続が望まれた。

評価項目	具体的目標 (評価小目標)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
第1学年	規範意識を高めるため、高校生として規則正しい生活習慣と正しい言葉遣い、礼儀を身につけさせる。	服装・頭髪等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底する。挨拶の励行、敬語の徹底や遅刻の減少に努める。(遅刻については、1学期まで5回以内、年間15回以内を目標とする。)	B	学年当初は各自、中学の感覚で、生徒指導に対応していたが、根気よく指導を続ける中、各項目とも、大きな問題もなく、学校生活を進める事ができたと思われる。特に遅刻については、成果があった。 すばらしい取り組みの人権教育HRの学習効果もあるが、基本的に心優しく、温和な生徒が多く、互いに認め合う支えあう姿勢が多く見られる。 学習に対する考え方が甘く、予習・復習の習慣が身につかない生徒が多い。課題の提出も不十分な生徒がまだ多く見られる。	各指導については2年次も計画的に継続的に続け、大きな崩れがないよう心がける。 学年集会の回数をもっと増やし学年としての一体感を持たせる。 各教科と、連携し、自宅学習の増加の方法を模索する。	特になし
	個性を尊重し、一人ひとりが違うということを自覚し、ともに支え合う態度を養う。	人権教育HRや学年集会など、さまざまな機会をとらえて自己を見つめさせ、「認め合う、支え合う」姿勢を養い、育てる。	A			
	家庭学習の習慣化をはかり、基礎学力を充実させる。	家庭学習を定着させるため、ノートや課題の提出等について工夫させ、全生徒が家庭で学習する習慣づけを行い、基礎学力を高める。	B			
第2学年	基本的な生活習慣を身につけさせ、規範意識を向上させる。	遅刻・早退・保健室利用者の人数の減少に努める。(1学期5回以内、年間15回以内を目標とする。) 服装・頭髪等を正すなど、高校生としての自覚を促す指導を徹底し、集団行動の中で規則や規範の重要性を実感させる。(特別指導を要する生徒の人数を年間で学年生徒数の3%以内を目指す。)	A	学年進行とともに遅刻は昨年度よりもやや増加しているが、遅刻指導などにより、一定の歯止めはかかっている。服装・頭髪はおおむね良好である。繰り返し違反する生徒についても、粘り強く継続指導を続けている。特別指導は昨年度に比べ減少した。 すぐに目に見える成果が出ることはないが、修学旅行などによりクラスの間関係が改善したところもある。つらい立場にある生徒にうまく寄り添う姿も見られた。 ノートや課題の提出は完全にはできなかったが、昨年度よりもかなり改善した。予習が習慣化できている生徒も徐々に増えてきた。	頭髮、服装、遅刻の指導については、今後も同じ形で継続していく。	特になし
	心身の健康を保持増進するとともに、一人一人の人間の個性を尊重し、ともに支え合う態度を養う。	さまざまな機会をとらえて健康への意識を高める。人権教育HRや学年集会・総合的な学習の時間等を通じ、自己を見つめさせ、「認め合う」姿勢を養う。	B		さまざまな機会をとらえて、継続して取り組む。	
	課題提出の厳守と家庭学習の習慣化をはかる。	課題の提出を全生徒に厳格に守らせるように徹底する。(提出遅れゼロを目標とする。) 家庭学習を定着させるため、予習の仕方から指導し、全生徒が家庭で予習する習慣づけを行う。	B		各教科と連携し、進路実現に向けてその内容を更に向上させていく。	
第3学年	礼儀・マナーの大切さに気づき、基本的な生活習慣を定着させるとともに規範意識を高める。	指導に工夫を凝らし、遅刻・早退・保健室利用の生徒数の抑制につとめる。(生徒人あたり1学期5回以内、年間15回以内を目標とする。)恒常的に服装・頭髪等が適正かどうかチェックする。可能な限り学年集会を開き、学年の結束と団結を促す。(特別指導を受ける生徒の人数を年間学年生徒数の5%以内を目指す。)	A	服装違反や頭髪違反の生徒は以前に比べかなり減った。また特別指導を受けた生徒の割合は第3学年の生徒数の5パーセントであったので目標は達成できた。欠席を年間15回以上した生徒は15名、遅刻を年間15回以上した者は12名であった。少なくとも学期に一回の学年集会を実施し、集団行動と学年の団結を促した。30周年の際には最上級学年としての自覚をもって立派に取り組めた。一部幼稚な行動を反復する傾向がある生徒が存在したが、改善するのに時間を要した。今後も様々な課題をかかえた生徒が入学してくると思われるので、最新の実践・手法等を紹介する研修会等が必要である。 欠席が年間10回以上の生徒は21名いたが全学年の生徒のおよそ1割にあたる。目標は達成できなかったが、不登校生徒や長期欠席者を出さなかった。各行事には欠席者も少なく出席できた。特に2学期は文化祭・体育大会・校外学習・30周年式典と行事が続いたが、大きくリズムを崩さず学習に取り組めた。学校行事に参加はできるが主体的に関わるという面ではやや物足りなさを感じる。 進路指導部を中心に各種講習会、相談の機会を設定できた。そのため第3学年になり意欲や将来に対する意識が高くなった生徒はうまく指導にのれて進路を実現していった。しかし進路に対する意識が現状からずれている場面が少なからず見られた。保護者も含めた現実的な進路指導の工夫が必要である。	生徒一人一人に対するよりきめ細かな指導が必要となってきた。職員間の情報交換の場や共通理解のための工夫を行う。	特になし
	健康に留意し、人を思いやれる態度を養う。	それぞれの学習の場面で健康に配慮を促し、疾病等による欠席者の抑制を図る。(欠席数が年間10回以上の生徒の率を全生徒数の5パーセント以内を目標とする。)精神的なゆとりを持たせるために、可能な限り各種行事には工夫を凝らせるように努力する。	B		生徒の自主的な活動を促すために、早い時期に生徒の意見を聴く場を設けたり組織作りを手助けする	
	各生徒が目標とする進路を実現できるように必要な支援を行う。	各種ガイダンス、相談会、面接講習等を行うなどして進路に向けての意識・意欲を高める工夫を行う。	B		保護者向けの進路指導啓発の機会を可能な限り多く設ける。	